

ここからはじめよう、運用自動化

金子 康行

長久勝

波田野裕一

横地晃

今井祐二

株式会社グローバルネットコア

ライフマティックス株式会社

運用設計ラボ合同会社

株式会社エーピーコミュニケーションズ

株式会社富士通研究所 (プログラムプロデューサ)

- 発表形態：パネルディスカッション
- 希望発表時間、希望議論時間：発表80分（うち発表65分、議論15分）
- アブストラクト

ネットワーク運用自動化は、技術・ツールの充実と事例の蓄積により、実装上の敷居は確実に低くなってきている。また、経営・マネジメント層からの自動化要求や、業務の多様化や業務量増大により、自動化を進めざるを得ない状況に追い込まれてきているケースも増えてきている。このような状況においては、どの業務を対象に選ぶべきか、どの順序で実施するべきか、が適切な運用自動化を実現する上で非常に重要になる。本パネルでは、効果の高い自動化を実施する戦略・戦術について議論する。自動化とは何か、なぜ自動化するのかから説き起こし、各パネラーから具体的なアクションとして「ここからはじめる」を提起する。

■ 応募の経緯

- JANOG42「その運用自動化では行き詰まる」では、自動化の副作用として起きる問題に議論の比重が置かれ、対策の提示は充分でなかった
- 問題に対する具体的な対策も議論することで、「いっぱなし」の状況を解消したい（伏線の回収）

■ 目標

- 「自動化するといいことありそう」「自動化してみたい」と漠然と思っている聴衆に、「JANOGから帰ったら、これからとりかかろう」と具体的にイメージしてもらおう。

■ パネルで触れる、主要なポイント

- なぜ運用自動化するのか、なんのために運用自動化するのか
 - 運用とは、サービスをデリバリすること
自動化の目的は、サービスデリバリを改善すること
 - 同じ目的をえる手段の選択肢のひとつにすぎない
→ 業務をなくすことが最大の効果を産む場合もある（究極の自動化）
- どこまで自動化するのか
 - 自動化レベルの話
→ 自動化で得られる効果と、かけるコストのトレードオフ
→ 機械メインの実施にできるもの、人がメインで実施する方が良いものがある
 - 「運用でカバー」のリストアップと分類（運用でカバーの棚卸し）
- 何を自動化するのか
 - リスクと難易度・効果を見極めて、冷静に、冷徹に、自動化対象を選定する。
 - 見極めるための軸をたてる
リスク・効果（対象数・頻度・時間・今までと将来）・作る難易度・影響範囲・使い勝手・使う難易度
 - 効果大きい ⇨ インベントリおこし、CRUDのREAD

■ 第1パート 戦略編：考えるべきポイント

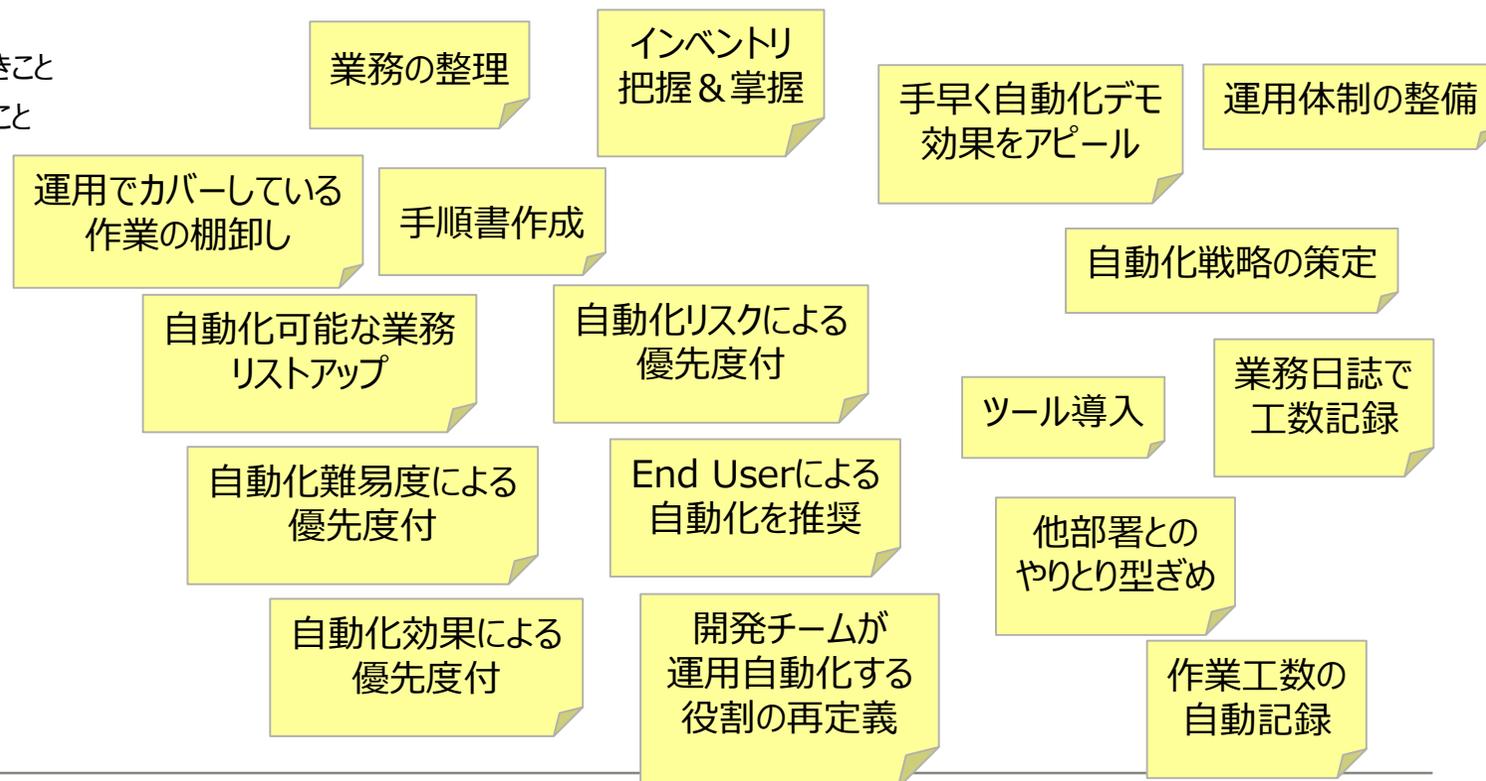
- なぜ自動化するか
- どこまで自動化するか
- なにを自動化するか

■ 第2パート 戦術編：着手するポイント

パネラーに職責ペルソナを割り当て、着手すべき項目カードに順番づけし、理由を解説

- CTO・システム部長がすべきこと
- 自動化担当チームリーダーがすべきこと
- 自動化担当エンジニアがすべきこと

■ 第3パート 議論



FUJITSU

shaping tomorrow with you